

平成29年度の耐震化事業の結果について

平成29年度に実施した公共建築物の耐震化事業等の結果は次のとおりです。

1 公共建築物の耐震化事業の状況

(1) 耐震診断

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}		備考
		Is値 ^{※2}	C _{TU} ・S _D 値 ^{※3}	
第24消防分団器具置場	坂ノ下18番14号	1.51	1.03	・鉄筋コンクリート造 ・補強不要
第27消防分団器具置場	材木座五丁目13番4号	0.45	0.49	・補強コンクリートブロック造 ・平成30年度 補強設計予定
第28消防分団器具置場	大町二丁目4番21号	0.40	0.44	・補強コンクリートブロック造 ・平成30年度 補強設計予定

(2) 耐震改修設計（子ども会館・子どもの家整備事業）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1} 上部構造評点 ^{※4}		備考
		診断時	補強設計	
(仮称)おなり子どもの家等 (旧図書館部分)	御成町18番35号	0.09	1.30	・木造 ・平成29～30年度 耐震改修工事等

(3) 耐震改修工事（伝統鎌倉彫振興事業）

施設名	所在地	診断結果 ^{※1}			備考
			Is値 ^{※2}	q値 ^{※5}	
鎌倉彫振興事業所	由比ガ浜三丁目4番7号	診断時	0.48	1.93	・鉄骨造 ・耐震改修工事完了
		改修後	0.77	3.09	

※1 診断結果は、各階・各方向について算出した指標の最低値（建物の代表値）を掲載

※2 Is 値：鉄骨造・鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の耐震性能を表す構造耐震指標（Seismic Index of Structure）

※3 C_{TU}・S_D 値：主に鉄筋コンクリート造の建築物に適用される、建物の頑丈さを表す指標（終局累積強度指標（C_{TU}）と形状指標（S_D）の積で求められる）

※4 上部構造評点：木造建築物の耐震性能を表す指標

※5 q 値：保有水平耐力に係る指標

2 耐震性能の指標について

(1) I_s 値、 $C_{TU} \cdot S_D$ 値、 q 値とは

I_s 値は建物の耐震性能を表す構造耐震指標 (Seismic Index of Structure) の略で、建物の構造部材の強度と粘りをもとに、形状や劣化を考慮して算出するもので、 I_s 値が大きいほど、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性が高いと判断されます。

$C_{TU} \cdot S_D$ 値は主に鉄筋コンクリート造の建築物に適用される、建物の頑丈さを表す指標 (終局累積強度指標 (C_{TU}) と形状指標 (S_D) の積で求められる) で、 $C_{TU} \cdot S_D$ 値が大きいほど耐震性能が高いと判断されます。

q 値は保有水性耐力に係る指標で、地震による水平方向の力に対する建物の強さを表すもので、 q 値が大きいほど耐震性能が高いと判断されます。

国の基準では、「 I_s (各階の構造耐震指標) が 0.6 以上の場合で、かつ、 q (各階の保有水平耐力に係る指標) が 1.0 以上の場合」、または、「 I_s が 0.6 以上の場合で、かつ、 $C_{TU} \cdot S_D$ が 0.3 以上の場合」に、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」とされています。

(2) 上部構造評点とは

上部構造評点は、木造建築物の各階・各方向について、想定地震に対して必要な耐力と建築物が保有する耐力の比で表したものです。

上部構造評点が大きいほど想定地震に対する安全性が高いと判断されます。

評点 1.0 が、建築基準法の求める大地震時性能を有しているかどうかの判定基準となり、1.0 を下回れば、倒壊する可能性があります。